令和５年度　高等学校コンソーシアム京都　事業報告

〔1〕運営基本方針について

・当コンソーシアムでは、設立以来、インターンシップの推進、社会人講師や大学教員の招聘など、産業界と高等学校との連携、大学と高等学校の連携の推進を中核的事業として、京都市立高等学校などで学ぶ生徒の勤労観・職業観や進路意識の高揚、アントレプレナーシップの涵養を目指し、その時代に応じた「産学公」連携を推進してきました。

・２年前から、当コンソーシアムの役割を見直しつつ、役割に沿った事業や取組を多機関と協働しながら、新たな学びの場が創出できるよう学校を支援する取組をすすめています。

・今年度は、次の重点３項目を掲げて活動してきました。

Ａ．社会と連携・協働した活動を通して、生徒が新たな気づきや学びが生まれてくる機会や情報を提供する。

Ｂ．市立高校間での探究的活動や外部連携事業などの情報共有や連携を推進する。

Ｃ．高校と外部をつなぐ支援拠点となるよう取組を重ねる。

〔2〕事業と取組について

地域社会、企業や高等教育機関などの多機関との連携・協働を推進する産学公連携の要となるよう、当コンソーシアムでは以下のような事業、取組を行いました。

なお、事業・取組の後ろの＜　＞は、重点項目との関連を表しています。

⑴ 当コンソーシアムの活用の推進　＜Ａ、Ｃ＞

・年度初めに全教職員へリーフレット「高等学校コンソーシアム京都の活用について」を配布し、活用の推進を図りました。これまでの市立高校への広報の効果と相まって、今年度は、学校から当コンソーシアムへの相談・依頼件数が増えました。

・市立高校との連携をすすめる中で、今年度の各校からの相談・依頼件数は、13 件となりました。相談・依頼内容は、講演会の講師の紹介、授業などでの外部講師の紹介、企業、施設等の訪問先の紹介、「総合的な探究の時間」での外部連携先の紹介など多岐にわたるものでした。

・コンソサイト「コンテスト情報」の閲覧数も増加しています。

・当コンソーシアムを多くの皆さんに知っていただくために来年度に向けて新パンフレットを作成し、周知を図っていきます。

⑵「コンソ・ニーズタンク」への情報の集積、人的ネットワークの構築　＜Ａ、Ｂ、Ｃ＞

・学校より相談・依頼があったときに的確な情報提供や、教育活動のねらいに沿うような紹介ができるように外部資源の情報収集や人的ネットワークの構築を現場に足を運びながら地道にすすめてきました。

・高校生向けには、「コンソ・ニーズタンク（京都市立高校生版）」を作成し、高校生が直接、データをダウンロードし、閲覧、活用できる仕組みを昨年 10 月に構築しました。現時点での利用はありません。

・講演会、ワークショップなどの動画を YouTube（限定公開）にアップし、市立高校教職員、あるいは、生徒たちが視聴できるようにしており、少しずつコンテンツを増やしています。

・市立高校での外部と連携した教育活動について情報収集を行い、外部連携事例を一覧表にまとめ、閲覧できるよう「コンソ・ニーズタンク」で情報提供しました。

・当初は、「コンソ・ニーズタンク」は数的な充実を意識してきましたが、現在は、学校からの相談、依頼内容を念頭におき、より具体的な情報提供ができるように情報収集をしています。

⑶ 企業、研究室などの訪問　＜A、C＞

・希望する市立高校生を対象に地元京都の企業、研究室などを訪問し、ディスカッションやワークショップを通して、自分らしい在り方、生き方、働き方を考えるきっかけとなるような学びの場を提供しました。

・8 月 4 日（金）に株式会社堀場テクノサービスを訪問し、会社概要の説明や施設見学をさせていただき、その後、グループに分かれて若手社員さんとディスカッションを行いました。

・8 月 24 日（木）に地方独立行政法人京都市産業技術研究所を訪問し、研究所紹介や施設見学をさせていただきました。

・参加した生徒たちは、訪問で多くのことを感じ、気づき、学んだ貴重な時間となり、満足度も高いものでした。

⑷ 京都洛南ライオンズクラブとの連携事業「Joint S&E Forum」　＜A、C＞

・「Joint S&E Forum」は、主催：京都洛南ライオンズクラブ、共催：当コンソーシアムで平成 15 年から 21 年間継続して実施しており、高校生（市立・府立)、中学生（市立）と企業経営者がお互いを啓発し合う取組であり、参加した生徒たちのキャリアアップに寄与してきました。

・今年度の第 21 回 Joint S&E Forum は、11 月 18 日（土）に京都リサーチパークで 2 部構成（午前第 1 部：生徒発表、午後第 2 部：グループディスカッション）で、コロナ禍前の形式で実施しました。

・第 20 回より、高校在学時に本 Forum で生徒発表をした卒業生をお招きして先輩スピーチを行っていますが、今年も 1 名の現役大学生に来ていただき先輩スピーチをしていただきました。参加した生徒、教員やライオンズクラブメンバーにとってメッセージ性の高いものとなりました。

⑸ 大学との連携　＜A、B、C＞

・今年度も大学コンソーシアム京都「京都高大連携研究協議会」に運営委員として当コンソーシアム事務局長が参画しました。

・共催事業の「高大社連携フューチャーセッション」は、高校生・大学生のキャリア発達を促すことを目的とし、高校生・大学生・社会人といった世代、学校間を越えて、設定したテーマについて対話・交流するプログラムです。

・今年度は、「探究・研究を心から楽しむコツを考えよう～どうすれば探究・研究や良い問いを将来のキャリアにつなげられるか～」のテーマで 11 月に開催されました。

・市立高校での高大連携事業について情報収集を行い、外部連携事例を一覧表にまとめ、閲覧できるよう「コンソ・ニーズタンク」で情報提供しました。

⑹ 情報発信・広報　＜A、B、C＞

・市立高校の教育活動や、教員、生徒にとって役立つ他機関のセミナーなどの情報をホームページ、コンソサイト、Instagram などで　ほぼ毎日発信しています。コンソサイトへのアクセス数は、少しずつではありますが増えています。

・外部から当コンソーシアムへ情報発信を依頼されるケースも少しずつ増えています。

・市立高校に向けては、様々なイベント、セミナーなどの情報や広報紙「CAREER」を適宜発行し、情報提供をしています。

⑺市立高校との連携、支援　＜A、B、C＞

各校の学校教育目標の達成に向けた教育活動における外部資源活用のニーズを把握しながら、各校の現状も捉えつつ、新たな学びや気づきの場を学校に提供できるよう支援をすすめています。

(a) 市立高校「総合的な探究の時間（総探)」研究会への参画

・月 1 回開催される研究会理事会にオブザーバーとして出席し、各校の総探の現状や課題、研究会での議論やニーズを把握しています。

・研究会や各校の状況を踏まえながら研究会担当教員にとって役立ちそうな情報を適宜提供しています。

(b) 塔南・開建高校への支援

・同校学校運営協議会にオブザーバーとして会議に出席しました。

・開建高校 1 年生「未来デザインプログラム」（大学、企業等訪問）の訪問先の開拓や実施に向けての相談にのっています。

・「京都探究」（1 年生後期の探究活動）についても訪問先などに関する相談をうけています。

(c) 京都奏和高校への支援

・11 月下旬の 3 年生キャリアセミナー「社会人との交流」で、社会人との交流を通じて、残り少ない高校生活において社会に出るうえでの気持ちの準備や整理をすることを目指すため若手社会人との交流を 10 数社から社員さんが来校され実施されました。昨年度、当コンソーシアムが学校とつないだ「京都市わかもの就職支援センター（わかせん)」のご協力で実施されています。

(d) インターンシップ・企業訪問の支援

・市立高校では、現在、京都工学院高校、美術工芸高校、京都奏和高校の 3 校でそれぞれの形式でインターンシップが実施されました。今年度は、インターンシップの新たな受入先の新規開拓の依頼はありませんでした。

・美術工芸高校では、今後に向けた新たなスタイルでのインターンシップを検討され、当コンソーシアムが受入先の開拓、紹介の相談を受けました。

(e) 京都府ロボット大会・市ロボット競技大会

・第 28 回京都府高等学校ロボット大会が、8 月にされ、当コンソーシアムも出席させていただきました。今年度の全国大会（福井県）出場は、府立峰山高校と府立工業の 2 校となりました。京都工学院高校は、第 3 位で残念ながら全国大会へコマを進めることができませんでした。

・第 31 回市ロボット競技大会が、京都工学院高校より 7 台、京都機械金属中小企業青年連絡会（機青連）より 1 台（オープン参加）、合計 8 台のエントリーで、1 月に開催されました。今年も、白熱したゲームが多く非常に盛り上がった大会となりました。

⑻ 執務場所の移転

・設立から 20 数年間執務場所としていた京都リサーチパーク（KRP）内の京都高度技術研究所（ASTEM）から、開建高等学校内に 6 月移転しました。高等学校内にあることから、教職員との距離感は縮まったように感じており、各校における当コンソーシアムの活用に少しずつ繋がっていくと考えています。

・一方で、今年度もいろいろとご支援、ご協力いただきました旧執務場所エリアの KRP や ASTEM、京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)などとの連携も継続していくことが必要です。

〔3〕次年度に向けて

・当コンソーシアムの役割を見直しつつ、多機関のご支援、ご協力をいただきながら、新たな学びの場が創出できるよう学校の支援をすすめて 3 年が経ちます。

・この 3 年間は、事業と取組の「選択と集中」と市立高校教職員からの当コンソーシアムの認知度を上げることを目的に、取組を進めてきました。3 年間で、試行錯誤しながら、また、多くの方々からのご意見もいただきながら取り組んできたことで当コンソーシアムの運営の方向性は明確になりました。

・ベースとなるのは、やはり学校のニーズです。これを軸に取組、事業を進めることが肝要であると考えています。来年度も学校現場での教育活動の状況を見ながら、市立高校各校の教育活動が深化していけるよう当コンソーシアムの事業・取組を精選、改善し、支援活動を進めていきます。

・外部の方々のニーズについても情報収集しながら、産業界などからも頼られる組織を目指したいと考えています。